

第3次町田市環境マスタープラン一部改定（案）に対する
パブリックコメントの実施結果

2025年2月

町田市環境資源部環境政策課

「第3次町田市環境マスタープラン」の一部改定（案）に対する
パブリックコメントの実施概要

1 意見の募集期間

2024年12月15日（日）から2025年1月15日（水）まで

2 意見募集の方法

◆以下の施設での資料閲覧・配布

環境政策課（市庁舎7階）、市政情報課（市庁舎1階）、広聴課（市庁舎1階）、男女平等推進センター（町田市民フォーラム3階）、各市民センター、各連絡所、各市立図書館、町田市民文学館、町田市バイオエネルギーセンター

◆町田市ホームページに資料を掲載

◆「広報まちだ」（2024年12月1日号）にパブリックコメント実施予告を掲載

◆「広報まちだ」（2024年12月15日号）にパブリックコメント実施概要及び素案概要を掲載

◆ECOまちだ、商工会議所ニュース、LINEのプッシュ通知、SNS（ハスのん公式のX、Instagram）

◆各子どもセンターで周知

3 寄せられたご意見の件数・内訳

電子メール（４名）、ご意見入力ホーム（WEB での回答 １１名）、郵送（１名）、LINE（１名）を通じて、１７名の方から、５３件のご意見をいただきました。

参考までにご意見をいただきました１７名の方の内訳をご紹介します。

市内１５名（うち団体数１）

市外１名（うち団体数０）

不明１名

ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。

ご意見の対象（項目）	意見 No.	件数
①計画全体	No. 1～5	5
②【基本目標１】エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち	No. 6～28	23
③【基本目標２】源流から里山、都市が織りなすいのち輝くまち	No. 29～40	12
④【基本目標３】徹底したごみ減量、資源化を進めるまち	No. 41～46	6
⑤【基本目標４】安全で快適な暮らしを実現するまち		0
⑥【基本目標５】環境について、みんなで学び、協働を進めるまち	No. 47～48	2
⑦その他	No. 49～53	5
合計		53

ご意見の概要及び市の考え方は、次ページ以降をご覧ください。なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は項目ごとに整理し、要約して掲載しています。

4 ご意見の概要及び市の考え方について

①計画全体（5件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	予算措置について全く記載がないのは計画の実行に対して不安感しかありません。少なくとも重点プロジェクトについては予算を明記すべきです。また、資金については、寄付も大いに活用すべきだと思います。	市内の温室効果ガス排出量の削減など、成果指標の達成に向けて、様々な手法を検討した上で、取組を進めていくため、策定時点において、事業規模を明示することは困難です。 そのため、各取組、重点プロジェクトにおける事業費は記載しておりません。 また、現在、企業版ふるさと納税では、「ゼロカーボンシティへの推進」として募集を行っております。こうした制度や、国・都の補助制度を活用して事業を推進してまいります。
2	P6：自治体レベルの環境政策を検討するときには、地球環境問題の現状と問題解決に向けた世界的な取り組みを踏まえることが重要です。気候変動対策に関連してパリ協定については触れていますが、2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにする「カーボンニュートラル」という世界的な目標について（日本も目標にしていますから）言及した方がよいと思います。また、地球環境問題については、気候変動対策と生物多様性保全はセットにして考えることが求められますから、「カーボンニュートラル」とあわせて「ネイチャーポジティブ」という用語も、ここで取りあげるべきだと思います。	2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするため、町田市においても、「ゼロカーボンシティまちだ」宣言をしております。 国内外の環境政策を取り巻く動向に関して、追記させていただきました。また、ご意見のとおり、ネイチャーポジティブについても、取り上げさせていただきました。

3	P8: 前計画における振り返り基本目標 1 >達成目標の評価「東日本大震災以降の原子力発電停止に伴う火力発電の稼働率上昇の影響等により「二酸化炭素排出量の削減」の目標達成が厳しい状況です」とありますが、前計画は福島原発事故後に立てられたものですから、目標達成が困難である主因をここに求めるのはおかしいと思います。むしろ、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進や、蓄電池の活用などがどうであったのかを検証すべきではないでしょうか。一方で、温室効果ガスの排出量は、2013～2017 年度の間に15%ほど減少しています。この数値をどう評価しているのかあいまいですので、その点も再考したほうがよいと思います。	前計画の振り返りにつきましては、「第3次町田市環境マスタープラン」の策定時に整理しているため、今回の一部改定では内容の更新をしておりません。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
4	P51: 「地球温暖化の影響」の部分将来への影響、もっと怖い数字に変更になるのでしょうか。 P58: 「流域という単位で考える」 P80: 「緑のカーテン事業」 数値が含まれてないこのような記述がどのように更新されるのか、更新案を掲載すべきではないでしょうか。	コラムでは、市の取組や、国や都の動向などを掲載しています。分かりやすく理解していただくための資料という位置づけのため、パブリックコメントの対象とはしていませんが、より分かりやすくなるよう、一部のコラムを更新しています。
5	市内各所で環境の学習会を開催するなどして、そこで改定案の説明を行い「パブコメ」についてもっと周知していただけるとよいと思います。次の見直し(3年後?)はご検討ください。「HPを見たけれど、資料を見ただけではよくわからないから(出せない)」という声も聞き、残念に思います。	ご意見の趣旨につきましては、今後の参考にさせていただきます。

②【基本目標 1】エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち
(23 件)

No.	ご意見の概要	市の考え方
6	地球温暖化に対する町田市の立ち位置を明確にして下さい。町田市が日本で 39 番目の人口を抱える自治体として、また都心に近く緑が多く残っている市として、温暖化を阻止する先頭に立って下さい。取り分け、公園や緑地の緑や里山を守ることは 40 度も遠くない時期にあり得る中、市民の健康と生命を守るための基軸の問題です。	一部改定では、温室効果ガス排出量の削減目標に関して、国を上回る約 51%の削減とします。この削減目標の達成に向けて、取組を進めてまいります。
7	ゼロカーボンシティまちだを目指す上で、すべての公共施設の再生可能エネルギー電力への切り替えや、建て替え予定の学校の断熱、省エネ、太陽光発電機器の導入などエコスクールへの取組があり、とても良い改定内容だと思った。	各種取組を着実に推進してまいります。
8	P40: エネルギー消費量等の、目標値を引き下げるとは当然のことだと思います。	
9	P40: 施策 1 で省エネルギーについてふれていますが、ここに IOT や AI の積極的な活用を入れてほしいです。個人・事業者の環境意識に訴えるだけでは、気候変動対策として間に合わないと思います。モニタリングデータを活用し、AI の支援を受けながら省エネルギーが進むような機器やシステムの導入が必要だと思います。事業者に関しては、エネルギーマネジメントシステムのことが言及されていますが、事業者だけの問題ではないはずです。	ご意見のとおり、省エネルギーの普及・導入にとって、AI の活用は有用であると考えるため、その旨追加しました。
10	■基本目標 1 の施策[1]「省エネルギーの普及・導入を進めます」について市内のエネルギー消費量の 2030 年度目標値を基準年度の 38%削減としたことについて、改定前より一歩前進したことは一定の評価を致しますが、COP28 では「2030 年までにエネルギー効率の改善率を 2 倍にする」としており、ここは是非 50%削減の高	一部改定では、直近の実績や、今後の公共施設における取組を踏まえて、目標値を設定しております。また、断熱性能の向上に関するご意見につきまして、今後の参考にさせていただきます。

	みを目指してもらいたいです。実現には建物の新築のみならず既存建築物の改修を促し、断熱性能を向上させる必要があります。そのために市内の工務店が断熱等級 6 以上の建物を建てられるよう技術的な支援(省エネ計算等)のしくみを整えてほしいです。	
11	生ごみの焼却にはエネルギーを余計に費やすため、生ごみを減らす取り組み(コンポスト導入補助の拡充)や燃やせるごみから生ごみを分別するしくみを整えていただきたく存じます。	ご意見のとおり、省エネルギー化の推進にあたって、ごみの減量を進めることは重要であると考えています。 いただいたご意見の趣旨につきましては、今後の参考にさせていただきます。
12	P82: 家庭のエネルギーの再エネ化のためには太陽光発電と蓄電池の導入が重要だと思いますが、町田市民のこれらの導入に対する助成金などの対策を記載してください。	基本目標 1 施策 [2] 「再生可能エネルギーの普及・導入を進めます」、重点プロジェクト 1-2 「市民、事業者における再生可能エネルギー等の利用拡大」等において、「市民、事業者向け太陽光発電機器導入の支援」を掲げており、今後、具体的な支援内容について検討してまいります。
13	P19: 気候変動目指すべきまちの姿 {ここだけではないですが} 再生可能エネルギーの導入を進める際に、蓄電池の導入もセットにして推進することが必要だと思います。エネルギーを効率的に利用できるだけでなく、防災の観点からも必要だと思います。	
14	自然エネルギーの活用、取り分け太陽光発電に対し、市独自の助成金を付け、年間計画を立てて遂行して下さい。	
15	市民・事業者の取組に再エネの「導入を検討します」とありますが、検討を加速する導入支援策(ex. 新築住宅向けに太陽光発電と蓄電池のセット提案、産業用の自家消費型太陽光発電の導入支援)を市の取組として挙げてはどうでしょうか。そのための財源は、環境省の重点対策加速化事業を活用すればよいと思います。東京都の「地産地消型再エネ・蓄エネ設備導入促進事業」と併用するスキームを組めば市の負担も無くなるので、ぜひ応募していただきたく存じます。	

16	■基本目標 1 の施策[2]「再生可能エネルギーの普及・導入を進めます」について市内の再生可能エネルギー導入量の 2030 年度目標値を基準年度の 200%増加に上方修正したことは、COP28 で採択された「2030 年までに再エネ発電容量を世界全体で 3 倍にする」という目標にも沿うものであり、歓迎します。しかし、達成にはより強力な政策が必要となります。「先ず隗より始めよ」で、「新電力等を活用した再生可能エネルギー利用方法の検討」から一歩踏み込み、市内すべての公共施設を再生可能エネルギー100%電力に切り替えることから始めてはいかがでしょうか。	基本目標 1 施策[2]「再生可能エネルギーの普及・導入を進めます」、重点プロジェクト 1-2「市民、事業者における再生可能エネルギー等の利用拡大」等において、 「再生可能エネルギー由来電力への切替（すべての公共施設）」を掲げておりますので、今後、着実に推進してまいります。
17	【成果指標の改訂】・市内の再生可能エネルギー導入率 2022 年度に 2030 年度の目標値に達したのはすばらしいですね。新たな目標値(200%増加)も実現できると思いますが、今後さらに多くの視点からの具体的なプランを熟慮する必要があると感じます。町田市内だけでなく、近隣の市町村や地方とも連携し、お互いにとって有効な施策を、前向きにご検討いただきたいです。	引き続き、先進自治体に視察を行うとともに、他自治体との連携を進めてまいります。

18	第４章 望ましい環境像実現のための取組み基本目標１ エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち施策〔３〕 将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます 市の取組① 次世代自動車の普及促進等を図ります市民・事業者の次世代自動車の普及を促進するとともに、公用車への次世代自動車の導入を進めます。の記述に賛同するとともに、「車両の充電設備は、再生可能エネルギー由来の電力を導入」の追記をご提案致します。 【理由】 次世代自動車やＥＶごみ収集車の導入は脱炭素化の取組みとして大変重要です。しかし、車両の導入だけではなく、それぞれの車両に再生可能エネルギー由来の電気を使用することは、車両の運用に伴うCO2 排出を実質ゼロに近づけるさらなるCO2 削減に寄与する重要なステップとなります。 また、車両の活用や運用方法を見直し一括管理を図る事で、台数の削減や効率的な運用が期待でき、さらなる運行コスト削減、メンテナンスの一括管理が可能となります。	基本目標１施策〔２〕「再生可能エネルギーの普及・導入を進めます」、重点プロジェクト１-２「市民、事業者における再生可能エネルギー等の利用拡大」において、「再生可能エネルギー由来電力への切替（すべての公共施設）」を掲げております。 この内容に基づき、車両に限らず、すべての公共施設における再生可能エネルギー由来電力への切替を進めてまいります。
----	---	--

19	第４章 望ましい環境像実現のための取組み 基本目標１ エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち 施策〔４〕 身近な気候変動の影響への適応を進めます 市民の取組 ・事業者の取組 の記述に賛同するとともに、P51⑦項目を下線部分の追記をご提案致します。 P50, P51: ⑦災害時にも<u>最低限の生活に必要な</u>自立したエネルギーを確保できるよう再生可能エネルギーや蓄電池、家庭用燃料電池等の導入を検討します。 【理由】 近年、記録的な猛暑や集中豪雨などが頻発しており、地球温暖化の影響が要因とされる気象災害等の被害は深刻さを増しています。過去には町田市においても境川・鶴見川・恩田川などの流域で甚大な被害をもたらし、大規模な浸水被害に見舞われました。 こうした災害時においても一定程度の生活が継続できるようフェーズフリーの概念を持ち、自宅で生活を継続できる環境を整えることで、必要なエネルギーを自主的に確保し最低限の市民生活や事業活動を継続することは、災害時の混乱防止にもつながり、在宅避難を推進することが可能になります。	ご意見の趣旨につきましては、今後の参考にさせていただきます。
----	--	---------------------------------------

20	市内の再生可能エネルギー導入量を 2030 年度までに約 200%増加させるという目標に賛意を表しますが、目標の実現には思い切った施策が必要と考えます。そこで、市民、事業における再生可能エネルギー等の利用拡大に関して提案します。賃貸借した農地での営農型太陽光発電の導入を支援してください。農家の減少・高齢化が進む中で、10 年度後には 23.6ha の農地が使われなくなることがわかっています。使われなくなる農地は新たな担い手農家に貸し出すことが見込まれますが、その際に、農地を賃貸借すると同時に営農型太陽光発電を導入する場合は補助金を出すという仕組みにしてください。農業者は少ない自己負担で太陽光発電を導入し、収益の安定化に繋がります。また、農地は太陽光発電に適しており、パネルによる若干の遮光が野菜の生育にプラスとなることもあります。営農型太陽光発電を導入した畑で生産された野菜を例えば「まちベジ+」としてブランド化し、アグリハウスで販売することで、町田市のゼロカーボンへの取り組みをアピールし、地産地消を推進できます。	基本目標 1 施策 [2]「再生可能エネルギーの普及・導入を進めます」、重点プロジェクト 1-2「市民、事業者における再生可能エネルギー等の利用拡大」等において、「市民、事業者向け太陽光発電機器導入の支援」を掲げており、今後、具体的な支援内容について検討してまいります。
21	数年前、千葉県にてソーラーシェアリングを活用した畑を見学させていただきました。畑の上にソーラーパネルがあったら日陰になってしまうのでは？と思っていましたが、いい具合に遮光されて作物にとってメリットがあることを学びました。町田市でも一般の農家さんがソーラーシェアリングを取り入れやすい仕組みを、地元の企業と連携して考えていけたらいいと思います。小中学生と一緒に農作業をしたり、収穫した作物の利用法を子どもと一緒に考えたりすることで、環境を考える市民が育つと思います。地産地消の推進だけでなく、基本目標 5「環境について、みんなで学び、協働を進めるまち」にも繋がります。	

22	重点プロジェクト1「再生可能エネルギーの利用拡大」について太陽熱への補助が第3次町田市環境マスタープランにも、改訂案にもないのが気になります。古い技術ですが、エネルギー効率は極めて高く、ガスの代替として効果が高いものです。過去の強引な販売の記憶などをいつまでもひきずって導入が伸び悩んでいるのはもったいないです。補助金などで推進すべきであると思います。	太陽熱については、特に、給湯需要の高い寒冷地において効果が高い手法であると認識しています。 設置場所が重なるため、温室効果ガスの排出削減効果が高い太陽光発電機器の普及を優先させていただきました。 太陽熱利用につきましても、エネルギー効率の高い手法となりますので、今後の参考にさせていただきます。
23	「第3次町田市環境マスタープラン」には「温室効果ガスの排出削減」施策、目標はあっても、一方の重要な施策である「温室効果ガスの吸収」など「温室効果ガスの排出がゼロにならなかった」分の対応（森林での吸収や他の地域との「排出量取引」など）が見あたりません。2050年度にカーボンニュートラルをめざすための施策や目標が書かれていません。町田市では、温室効果ガスの「森林の吸収」や「地中への吸収」などは現実的ではなく、カーボンニュートラルに全く間に合わないと考え、これは極めて重要な施策と考えます。 「第3次町田市環境マスタープラン」には「ゼロカーボンシティまちだ」宣言の実現のため、削減できなかった分への対応の方向性と最低限の目標があるべきと思います。	町田市では、まずは温室効果ガス排出量を削減することを最優先と考えています。「温室効果ガスの排出がゼロにならなかった」分の対応につきましても、今後の課題として認識しております。
24	市内のEV・FCVの導入をよりアグレッシブな目標にすべきです。町田市は森林資源が少ないので、カーボンオフセットゼロを達成するためには電動車両の導入が不可欠です。手始めに市役所で使用されている軽自動車をEVにしてください。	一部改定では、「市内乗用車の登録台数に占めるEV、FCVの割合」にPHVを追加し、目標値を現行計画の4.57%から9.8%に引き上げました。この目標達成に向けて、公用車への次世代自動車の導入などの取組を進めてまいります。

25	P47: 施策 3 のゼロカーボンに向けた取り組みとして、農産物の地産地消について書かれていますが、輸送距離を減らすならば、地産地消は農産物に限定されるものではないはずです。林産物なども含めて、地域内の資源循環を進めることが大事だと思います。	椎茸や筍などの林産物につきましても、農産物と同様に地産地消を推進してまいります。
26	気候変動による猛暑は命に関わることなので、気候変動適応策への意識を高めたり、これまで伝統的に行われてきた行事等(市や学校行事)も猛暑を避けた日程にすべて変更したほうが良いと思う。	引き続き、熱中症予防対策等の気候変動適応策について、普及啓発を行ってまいります。 また、ご意見の趣旨につきましては、関連部署と共有いたします。
27	【4】身近な気候変動の影響への適応を進めますの、目標値 28.5 パーセントは低いと思うので、もっと力を入れたほうが良いと思う。	「気候変動の影響に備えている市民の割合」につきましては、基準年度である 2022 年度実績の 18.5% より 10 ポイント高い値を目標値に決めました。 各種取組を進めることで、早期の目標値達成を目指してまいります。
28	学校統廃合等で、通学が長くなる児童も増える中、通学路に安全なクーリングシェルターを設置できると良いと思う。また、街中の例えば、既存のバス停にクーリングシェルターを設置するなど。	市では、2024 年 7 月 1 日に、過去に例のない暑さによる熱中症から市民等を守るため、「熱中症特別警戒情報」の発表時に開放が義務付けられる施設である、指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)の指定を行っております。2025 年 1 月 23 日時点で 60 施設を指定しております。

③【基本目標２】源流から里山、都市が織りなす いのち輝くまち（12件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
29	P20: 自然＞現状 2013 年度に実施した町田市生物調査についてふれていますが、もっと新しい調査結果はないのでしょうか。10 年以上前の調査をもとにした計画では、現代の環境問題に対応できないと思います。	現状につきましては、「第 3 次町田市環境マスタープラン」の策定時に整理しているため、今回の一部改定では内容の更新をしておりません。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
30	P34: 施策の中に「生きものの多様性を守ります」とありますが、その指標がなぜ「生きもの調査への参加者数」なのでしょう。この施策に対する指標を素直に考えるならば、町田市内に確認される「東京都の RDB 記載種」を●種から●種に増やすとか、せめて現状維持するといった指標が考えられます。オオタカとかムササビなどが取りあげられているのですから、きちんと多様性をはかることが重要だと思います。	生物多様性の保全を実現するためには、市民の理解や関心を把握するとともに、普及啓発を継続的に実施することで、徐々に生きもの調査等、生物多様性の保全の取組に参加する市民を増やしていくことが重要だと考えております。 このような考えの下、成果指標を設定しております。 成果指標の進捗管理を行うにあたり、継続的、安定的な情報収集・管理が可能である視点を重要視し、成果指標を設定しております。
31	P55: 施策 2 で水とみどりの保全と活用が掲げられていますが、保全の目標があいまいです。たとえば、十分に管理されていない水とみどり（耕作放棄地を含む）の面積を指標にして、その面積を減らすなどの目標を示すとわかりやすいと思います。	成果指標の進捗管理を行うにあたり、継続的、安定的な情報収集・管理が可能である視点を重要視し、成果指標を設定しております。
32	P56: 施策 2 にグリーンインフラについてふれていますが、具体的に何を意図しているのかあいまいです。田んぼや湿地などの内水氾濫を防ぐ効果、緑のヒートアイランドを抑制する効果など、もう少し具体的に説明を加えた方がいいと思います。	ご意見の趣旨につきまして、反映いたしました。
33	P58: コラムの「町田市の流域」は重要なので残してください。グリーンインフラとの関係を強調して書き直すと思います。	ご意見のとおり、流域の考え方は重要であると考えておりますため、引き続き掲載いたします。

34	みんなで将来に受け継ぐみどり豊かな町田の、「2-1 生き物の多様性を守ります」「2-2 水と緑を守り活用します」と、ありますが、野津田公園のバラ広場を移動して、前より花の元気を殺いでしまったのみならず、今度は湿生植物園を全部潰そうとしています。他のところで、市内の緑を増やせないのなら、公園内の緑を守るのは市民としての義務だと思います。スポーツを盛んにするために、公園内の植物を台無しにするのは、やめていただきたいです。	野津田公園につきましては、2014年度に策定した「町田市第二次野津田公園再整備基本計画」に基づき、バラ広場の再配置や雨水調整池を活用したスケートパークの導入、南口バス転回広場の整備等を進めております。 市内の緑の保全につきましては、都市における良好な自然的環境を現状凍結的に保全することを目的とした制度である都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」の指定を進めることや、市街地北部の里山の保全と活用を行う団体や企業・個人など、様々な担い手の方々を支援するなど、今後も、幅広い視点から、市内の緑の保全に取り組んでまいります。
35	重点プロジェクト3、里山環境の活用と保全が軽く扱われているように感じる。活用とは、野津田公園のすすきの原をバスの転回場にしたり、湿生植物園をスケートパークにすることではなく、環境を改変せず生物を保全しつつ、訪れる人を増やす工夫をすることではできないでしょうか。	
36	P59: コラム「生物多様性の大切さ」ではなく「町田市の生物多様性」を、町田の自然の特徴を踏まえて書いてほしいです。	コラム「生物多様性の大切さ」に、町田市に関する内容を追加しました。
37	町田市環境マスタープランの目標達成を阻害する国際工芸美術館の建設は、以下のように環境マスタープランの目標達成の妨げになるため即刻中止すべき。 ① 新たな無駄なハコモノの建設工事行為により、無駄に二酸化炭素が排出されることで、基本目標1(地球温暖化対策)の達成をより困難にする。 ② 蛍の生息する環境を致命的に破壊して建設されるため、基本目標2の水とみどりを守るという目標に全く逆行している。 なお、国際工芸美術館の建設を決めた過去の時点とは大きく時代や環境が変化しており、少子高齢化で将来の税収も減少するなかで無駄なハコモノを新たに加えることを市民は誰も望んでいないことを申し添える。	(仮称) 国際工芸美術館については、町田市の基本計画「町田市5ヵ年計画22-26」に基づき、重点事業プランとして整備を進めております。 建設にあたっては、施設の整備に伴う樹木の伐採を最小限度に留めるとともに、適切な補植を行いながら進めてまいります。

38	【里山環境の活用と保全】里山環境の活用と保全は、地域住民や市民団体との対話が続けながら大切に進めていただきたいプロジェクトです。また、子どもたちの大切にしている原っぱや昔からの地形を活かした公園の整備に関しても、できるだけ元の形を変えずに守っていくことが、私たちの義務ではないかと思います。	町田市里山環境活用保全計画に基づき、多様な主体による連携・協働により、持続可能な保全につながる里山環境の活用を推進してまいります。
39	重点プロジェクト3「里山環境の活用と保全」について「緑地の割合」について、「土地の開発行為の際には、可能な限りみどりの保全に努めます」とありますが、そのような消極的な姿勢では、目標は絶対に達成できないとおもいます。緑地を守ることは、都市環境の魅力としてもヒートアイランド対策としてもきわめて重要なので、環境保全措置(ミティゲーション)を義務化するなど、積極的な措置が必要だと考えます。特に、空き家が増えている現在および今後、空き家およびその敷地の利用が優先されるべきで、新しい住宅地の開発は厳しく規制すべきです。全体について町田市だけではゼロカーボンには限界があるので、特に自然が豊かな市町村と提携して進めるのはいかがでしょうか。山形県川西町など、縁のある地域が考えられると思います。人口減に悩む地域にとっては、町田からの交流人口を増やすことは意義があるので、どちらにとっても得るところがあると思います。	市内の緑の保全につきましては、都市における良好な自然的環境を現状凍結的に保全することを目的とした制度である都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」の指定を進めることや、市街地北部の里山の保全と活用を行う団体や企業・個人など、様々な担い手の方々を支援するなど、今後も、幅広い視点から、市内の緑の保全に取り組んでまいります。 他自治体との連携については、今後の参考にさせていただきます。

40	第3次町田市環境マスタープランでは、生態系ネットワークとしての機能への配慮や里山環境の保全、生き物の多様性を守ることが目指されているが、市の現状として進められている施策は、その方針と全く別方向となっている。例えば野津田公園では、昆虫や水鳥など湿地生物の生息するビオトープとして誰でも無料で利用できる自然との触れ合いの場として親しまれているが、「湿生植物園」のほぼ全域を舗装して、スケートボード等の競技施設を建設する「スケートパーク計画」を進めようとしている。また、上の原草原は平地の大部分を舗装して、バス転回場等のために開発する計画を進めている。芹ヶ谷公園では斜面植生の大幅伐採を伴う「工芸館」建設計画が進められている。また「歴史的・文化的環境」について、小野路地区は歴史環境に関する景観などを残す重要な地区だが、ここにはモノレール計画に伴う大規模な道路開発の恐れがある。 これらの問題に関心の高い市民に計画が知られる時には、最早止める手立ても改善の余地もない一方的な「説明」となってきた。本来の「市民参加」であれば、関心ある市民皆が参加できる議論の場を繰り返し設定し、対立や意見の違いを乗り越えるまで話し合うことが必要となる。残念ながら、今の町田市はそうした市民の意見や参画を認める方向には向いていないし、今回の「改定案」にも具体案は見られない。町田市においては、市内の現状に目を向け、本来の環境を守り市民の真の参画を実現する、あるべき姿への方針変更を望みたい。	野津田公園につきましては、2014年度に策定した「町田市第二次野津田公園再整備基本計画」に基づき、バラ広場の再配置や雨水調整池を活用したスケートパークの導入、南口バス転回広場の整備等を進めております。 市内の緑の保全につきましては、都市における良好な自然的環境を現状凍結的に保全することを目的とした制度である都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」の指定を進めることや、市街地北部の里山の保全と活用を行う団体や企業・個人など、様々な担い手の方々を支援するなど、今後も、幅広い視点から、市内の緑の保全に取り組んでまいります。 また、(仮称)国際工芸美術館については、町田市の基本計画「町田市5ヵ年計画22-26」に基づき、重点事業プランとして整備を進めております。 建設にあたっては、施設の整備に伴う樹木の伐採を最小限度に留めるとともに、適切な補植を行いながら進めてまいります。
----	--	---

④【基本目標３】徹底したごみ減量、資源化を進めるまち（６件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
41	プラスチック削減に関してペットボトルが山のように回収されています。ペットボトルの削減ができないかと考えています。 P F A S による水質汚染のこともあり水を購入する人もいます。それを解決することも必要でしょう。 できるだけ水筒を持ち歩きペットボトルを買わない、ことも大事です。マイバッグを持ち歩くことで買い物のときにスーパーでもらう袋は削減されましたが、スーパーではビニール袋をふんだんに使っています。スーパーでの発泡スチロールを肉や魚などに使っていますがそれをビニール袋にしたら発泡スチロールを削減できます。解決策としては、ビニール袋の値段を高くする。発泡スチロールも高くする、などの工夫が必要でしょう	市では、マイボトル（水筒）の利用促進のため、イベント会場などでオリジナルステッカーの配布、マイボトルへの給水サービスを行うマイボトルキャンペーンを実施しています。 また、民間企業と協力し、市内公共施設へのマイボトル専用給水器の設置を進めています。 いただいたご意見を参考に、今後もマイボトルの利用促進に努めてまいります。
42	難しい部分もあると思うが、プラ容器包装を減らす努力をしているスーパーとそうでないところがあるので、なるべく減らせる方向に市として働きかけはできるのか。	
43	2026 年度から市内全域でプラごみ回収が始まることを知っている住民は少ないので、周知に力を入れたほうがいいと思う。	環境広報紙「ECO まちだ」等において周知を図っているところですが、今後も分かりやすい周知について検討してまいります。
44	プラスチック用のごみ袋について、我が家はかなり前からピンク色の袋に入れてプラごみを出しています。以前から市ではそれをどのように処理しているのかを知りたかったのですが情報がありませんでした。26 年から町田市では全域にその回収を始めるとのことですが、市民に情報をいただきたいです。	

45	P64: 現在、町田市剪定枝資源化センターでは、竹資源の受け入れは処理の機械の問題だと思いましたが、行っていません。放置竹林の整備を促進し、竹をチップ化することで、堆肥等の利用がより活発になると思います。また、町田市の景観をよくする上でも有効な手段だと考えます。竹をチップ化する機械を導入して頂きたい。予算措置が必要と思いましたが、クラウドファンディングなどを活用して機械の購入に充てることも視野に実現して頂きたいです。	剪定枝資源化センターは、市内から発生する剪定枝を破砕・発酵させて、良質で安価な剪定枝たい肥（土壌改良材）を作る施設のため、竹を受け入れの対象としていません。
46	『徹底したごみ減量、資源化を進めるまち』についての提案コンポストへの補助が出ていますが、うちでは生ごみからできた堆肥の行き先がなく、少し困っています。2ヶ月に一度程度マンション内でできている園芸チームや実家に譲っていますが、それでも少し余ってしまいます。 『コンポストでできた堆肥はここに持っていくと美しい花の栄養になる』みたいな気軽に行けて、他の人も花や植物の鑑賞を楽しめるような場所があると、積極的に生ごみを減らす意識が出るのではないかと思います。	「コンポストでできた堆肥（一次生成物）」の活用については、回収及び活用方法を検討してまいります。

⑤【基本目標４】安全で快適な暮らしを実現するまち（０件）

⑥【基本目標５】環境について、みんなで学び、協働を進めるまち（２件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
47	【SNSの登録者数について】InstagramやXの登録者数を集計されていると思いますが、市からのメールやLINEでお知らせを受け取る人も増えているかと思うので、それらの数字も考慮されてはどうでしょうか。	SNS等のフォロワー数につきましては、InstagramやXだけでなく、市からのメールやLINEの配信登録者も含めて集計しております。
48	P47：当社では、エネルギーや環境、ガスの安全性についての授業やワークショップを通し、未来を担う子どもたちにエネルギーと環境の大切さをお伝えしております。特に「食生活から学ぶSDGs」講座では、自分達の身近な「食生活」をテーマに、地産地消の推進や、だれもがすぐに実行できる環境に配慮した行動や工夫のポイントについて学びます。また、自発的な行動変容に繋がる情報発信などを行い、地球温暖化対策に関する意識の啓発やゼロカーボンシティの取組みに貢献しております。 【理由】 家庭部門における排出量削減の取組みとして、省エネ機器等の導入や家庭における行動変容は極めて重要です。当社は2002年よりエネルギー環境関連の出前授業をスタートし、2014年には出前授業を受講していただいた児童・生徒の皆さまが累計100万人となりました。 今後もエネルギーに携わる企業として、「出前授業」「先生向け研修会」「教材提供」などを通じて、ひとりでも多くの方に、エネルギーや環境のことについて分かりやすく、そして楽しく考えていただくための活動に取組み、次世代に向けてお役に立ちたいと考えております。	市民・事業者・大学等の多様な主体と連携・協働し、環境学習に関する取組を推進してまいります。

⑦その他（5件）

No.	ご意見の概要	市の考え方
49	完成時期が遅延し、事故も発生したりリニア中央新幹線事業にたいし、これまでの市の判断を再検討し、負担が多く利用者増の期待できないモノレール建設について、抜本的再検討をして下さい。	リニア中央新幹線事業は、全国新幹線整備法に基づき国が許可した事業であり、市としてその是非を判断する立場にはないと認識しております。 また、多摩都市モノレール延伸は多摩地域を南北につなぐ都市骨格軸として、移動の利便性向上だけではなく、沿線のまちの魅力向上や活性化を一層進めるまちづくりの契機と捉えており、これから先の町田市の発展には欠かせないものであると考えています。
50	町田駅周辺や幾つかの駅前再開発について、必要最低限の開発にとどめ、近隣市との再開発レースに市の財政を過度に投入し、破綻させることは回避して下さい。	「都市づくりのマスタープラン」等に基づき、地域の実態に沿った施策を推進します。
51	防災・減災は喫緊の課題であり、また多額の費用を要します。幹線道路の片側二車線化、生活道路の整備など、住民生活の維持と産業活性化のために払った税金を使うよう、要望致します。	町田市では、自動車交通の円滑化や安全な歩行者環境の確保等を目的とする都市計画道路の整備事業や、生活環境、防災機能の向上を目的とする生活道路の拡幅整備事業に取り組んでおります。
52	現状の道路に自転車道の表示はあるが、道幅が広がったわけではなく、自動車と接触する危険性があるため、パリのように自動車道、自転車道、歩道との境界が設けられ、安全性の高い道路計画を立ててほしい。	町田市では、2024年3月に「町田市自転車ネットワーク計画」を策定し、自転車の通行空間整備に取り組んでおります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の参考にさせていただきます。
53	街路樹は、最低限の伐採を除き長命化、植樹に努め、道路が市街沸騰化の温床とならないよう、措置して下さい。	町田市では、2023年3月に「町田市街路樹更新計画」を策定し、良好な環境と景観の形成に向けて、街路樹の効率的・効果的な管理に取り組んでおります。 ご意見の趣旨につきましては、今後の参考にさせていただきます。